

## 第 72 回山形県自作視聴覚教材コンクール 全体講評【児童生徒作品部門】

児童生徒作品については、その種別や制作に関わった人数、時間などの差はあるものの、制作の意図がよく分かるものがほとんどであった。自主的な学習の重要性が叫ばれている昨今、今年度の出品作品のように「もっと知りたい、学びたい」という子ども自身の気持ちから制作が始まるような形は大変すばらしい。また、特に評価が高かった作品については、構成や見せ方に工夫が見られ、郷土についてわかりやすく魅力的にまとめられていた。

ICT教育の進展から、小中学生の技術向上には素晴らしいものがある。様々なツールを使いこなす児童生徒が増えてきていると感じられる。一方で、忘れてはならないのは、その技術に頼るのではなく、わかりやすく伝える方法の在り方である。「導入・展開・終末」などのストーリーを意識して制作に取り組んでいただきたい。また、コンクールの趣旨にも「郷土の学びに資する視聴覚教材」とあるので、自然や歴史、伝統文化や先人の業績など、作品のテーマに自分たちの「郷土」が入っていればなお一層よい作品になる。

今年度は小学2年生から中学生まで、幅広い年齢の児童生徒の作品が出品された。今後も子どもたちの意欲を大切に、作品制作をとおして「郷土を愛し、山形の未来を拓く人」づくりへとつながっていくことを期待する。